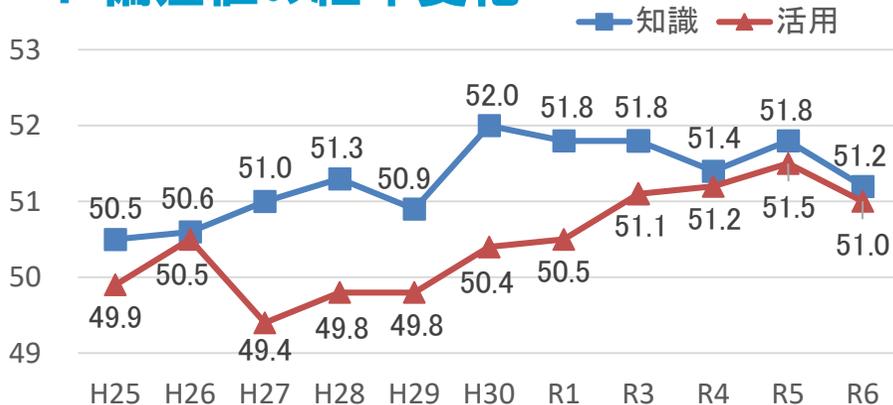


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	70.7	70.6
情報の扱い方に関する事項	71.0	69.4	62.5
我が国の言語文化に関する事項	91.9	89.2	85.0
話すこと・聞くこと	56.4	55.7	56.7
書くこと	70.3	62.7	58.8
読むこと	65.1	64.5	59.2

○[知識及び技能]の3つの事項、[思考力、判断力、表現力等]の3つの領域において、全国正答率を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	73.7	72.0	70.4
思考・判断・表現	63.1	60.7	58.1
主体的に学習に取り組む態度	52.7	48.0	51.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	62.8	62.4	60.0
短答	80.6	78.6	75.0
記述	56.0	50.7	52.5

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問6(3) 県正答率25.2% 無解答率16.9%

※出題の意図は、1年「話すこと・聞くこと エ」「必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて自分の考えをまとめること」の資質能力をみるものだが、「読むこと ウ」「目的に応じて必要な情報に着目して要約して、内容を解釈すること」の資質・能力に課題があることも考えられる。

【問題の概要】

・木村さんの調べたことに対するスピーチを聞いて(読んで)、理解したことを発言している青山さんの発言内容を、条件に従って書く問題。

◆ 指導のポイント

★目的に応じて、必要な情報を適切に取り出す場面において、生徒自身が、「必要な情報を過不足なく取り出せているか」を確認することが重要。

指導に当たっては…

生徒が各自で必要な情報を過不足なく取り出せているかを確認できるような手立て(自分自身・生徒同士で確認する視点を与えたり、必要な情報の数や要素が分かるワークシート等)を工夫するとともに、生徒が、適切に情報を取り出すことができていない場合には質問により情報を引き出したり、文章に戻って情報を見付けたりする場面を改めて設定することが必要である。

★ 指導の具体例

単元名：鯉節の魅力を伝えよう
(「鯉節—世界に誇る伝統食」 小泉武夫 東京書籍)

単元の目標

- 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。
[知識及び技能(2イ)]
- 目的に応じて複数の情報を整理しながら、適切な情報を得て内容を解釈することができる。
[読むことイ]
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。
[学びに向かう力、人間性等]

単元計画

1	単元の見通しをもつ。 本文を読み、「鯉とはどのような食べ物か」を読み取る。
2	本文から、鯉節の優れている点を読み取る。
3	筆者が、鯉節を世界に誇る伝統食と述べる理由をまとめる。
4	鯉節の魅力を伝える文章を、筆者の考えを踏まえてまとめる。
5	互いに書いた文章を読み、鯉節の魅力が十分に伝えられる文章になっているかを評価する。 単元の振り返りをする。

前時までに読み取った内容から、過不足なく必要な情報を選び文章を書くことがポイント

上記のような授業展開において、「必要な情報を過不足なく取り出す」ことができる力を、確実に身に付けさせるためには、第2時～第4時の読み取りの時間においても、必要な情報を読み取れているかを教師が見取り(形成的評価)、必要に応じて支援を行って第5時につなげることが大切です。

